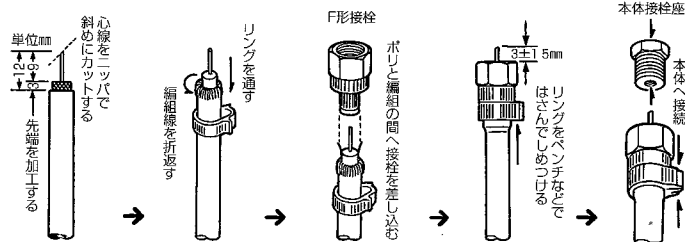


同軸ケーブルの接続方法

〈F-5接栓への同軸ケーブルの接続方法〉 (5C-2Vケーブル用)



- 同軸ケーブルの先端を加工する場合、心線・編組線に傷をつけると、断線の原因になりますからご注意ください。また心線と編組線は、絶対に接触しないようご注意ください。
- 接栓を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
- 設置した後で抜けたりしないように、同軸ケーブルのリングをしっかりと締めてください。
- 入出力端子へのF形接栓の接続は、接続ナットを200N・cmで締め付けてください(200N・cm以上では締め付けられないでください)。

規格特性

品名	CATV接続用ブースタ	
品番	LWB-302	
	上り	下り
使用周波数 (MHz)	5~55	70~770
標準利得 (dB)	増幅・15.5パス・-4	25
定格出力レベル (dBμ)	120	95
入力アッテネータ (dB)	0~10連続可変	0~10連続可変
E Q (dB)	—	0.3~6(切替式、70MHz値)
伝送波数	1波	75波
C T B (dB)	—	-60以下
ハム変調 (dB)	-60	
入出力インピーダンス (Ω)	75 (F形)	
耐雷性 (kV)	±15 (1.2/50μs) 入出力端子	
使用温度範囲 (°C)	-10~+40	
電源・消費電力	AC100V/6W, DC15V/170mA (下り出力上り入力重畳)	
外形寸法 (mm)	166(H)×128(W)×35(D)	
質量 (kg)	0.93	

*規格は改良により、変更されていくことがありますのであらかじめご了承ください。

伝送波数に対する出力レベルの変化 (CATV下り)、CTB値-65dB

伝送波数 (波)	75	57	32
標準出力レベル (dBμ)	95	96.5	99

ただし、伝送チャンネル配列は当社標準チャンネル配列による値ですので、配列により若干値が変化します。目安として利用ください。

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

東北支店 TEL (022) 249-2141 (株) サテライトオフィス盛岡 TEL (019) 836-1681 (株) サテライトオフィス盛岡 TEL (024) 921-7131 (株) 札幌営業所 TEL (011) 822-1251 (株) サテライトオフィス札幌 TEL (0166) 34-7447 (株) 東京西営業所 TEL (03) 3354-8451 (株) 東京ケーブル営業所 TEL (03) 3354-9812 (株) 東京東営業所 TEL (03) 3341-6281 (株) 東京施設営業所 TEL (042) 770-2931 (株) 多摩営業所 TEL (042) 662-3311 (株) 埼玉営業所	サテライトオフィス宇都宮 TEL (029) 659-1100 (株) 新潟営業所 TEL (025) 278-2168 (株) 茨城営業所 TEL (0298) 26-5341 (株) 千葉営業所 TEL (043) 253-1121 (株) 横浜営業所 TEL (045) 251-2557 (株) 静岡統括営業所 TEL (054) 281-0141 (株) 浜松営業所 TEL (053) 461-8885 (株) 中部支店 TEL (052) 771-5106 (株) サテライトオフィス岐阜 TEL (058) 273-9710 (株) 豊橋営業所 TEL (0532) 32-8188 (株)	三浦営業所 TEL (059) 226-1843 (株) 金沢支店 TEL (076) 281-9988 (株) 富山営業所 TEL (076) 422-7878 (株) 大阪営業所 TEL (06) 6334-6381 (株) サテライトオフィス大塚北 TEL (06) 6242-2451 (株) 堺営業所 TEL (0722) 78-5311 (株) 京都営業所 TEL (075) 321-4155 (株) 神戸営業所 TEL (078) 974-7100 (株) 姫路営業所 TEL (0792) 81-1600 (株) 広島支店 TEL (082) 237-5331 (株) サテライトオフィス防府 TEL (0835) 38-0609 (株)	サテライトオフィス松江 TEL (0852) 28-2372 (株) 岡山営業所 TEL (086) 245-2948 (株) 高松統括営業所 TEL (087) 858-1222 (株) 松山営業所 TEL (089) 925-3826 (株) 福岡営業所 TEL (092) 541-0188 (株) 北九州営業所 TEL (093) 922-6556 (株) 大分営業所 TEL (097) 558-7235 (株) 熊本営業所 TEL (096) 325-0711 (株) 南九州営業所 TEL (0995) 46-8590 (株) サテライトオフィス鹿児島 TEL (098) 267-8211 (株) 沖縄営業所 TEL (098) 874-6202 (株)
--	---	--	---

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL (078) 682-0041 (株) 東京支社/〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目11番4号 長崎ビル3F TEL (03) 3341-0441 (株)

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

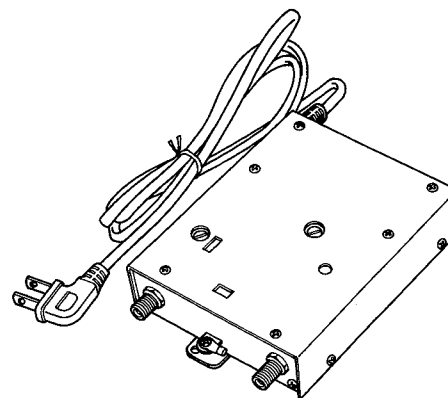
DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。



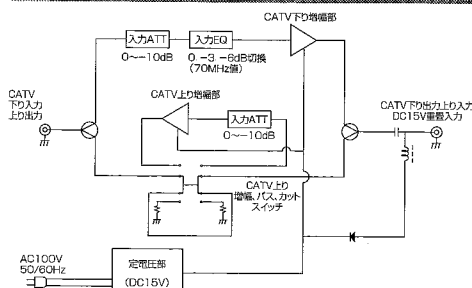
CATV用双方向ブースタ LWB-302

製品の特長

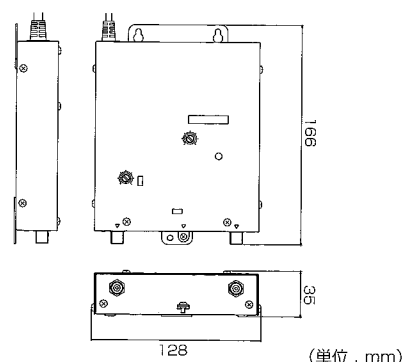
- 双方向CATV (上り5~55MHz、下り70~770MHz) 伝送の補償として最適な、CATV施設の端末に使用する屋内用の補償用ブースタです。
- 0~10dBの連続可変の入力アッテネータボリューム (下り帯域、上り帯域)、0、-3、-6dB切換入力EQスイッチ (下り帯域) を内蔵しています。
- 上り帯域増幅回路の採用で双方向システムに使用でき、切換スイッチにより上り帯域信号を増幅、パス、カットすることができます。
- 増幅器の小形・高性能化を実現し、取り扱いもスムーズです。
- 電源は、AC100V、DC15V (下り出力、上り入力端子より重畳) どちらでも使用できます。



ブロックダイアグラム



外形寸法図



安全上のご注意

- △記号は注意 (危険・警告を含む) を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容 (左図の場合は警告または注意) が描かれています。
- ⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください) が描かれています。

警告 この内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- テレビ受信関連工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。

- 表示された電源電圧 (AC100Vまたは、DC15V) 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この製品は屋内専用です。屋外で使用したり、風呂場や洗い場など水がかかる場所や、水などの入った容器の近くなどで使用しないでください。火災や感電の原因となります。

- 万一、内部に水などがいった場合は、まずこの製品と接続している電源装置の電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店もしくは工事店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには電源が流れることがありますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。また、通電形機器を挿入する場合は通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、同軸ケーブルの接続や接栓加工などで、心線と編組線が接触したり、同軸ケーブルを傷つけたりしないようにしてください。火災や感電の原因となります。



- この製品を換気扇や湯沸器のそばなど高温になる場所、油煙や湯気が当たるような場所には設置しないでください。燃えたり、変形したりして、火災や破損の原因となります。



- 不安定な場所、高所など足場の悪い場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- この製品のケースを開けたり、分解したりしないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となりますし、性能維持ができません。故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにこの製品と接続している電源装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙がでなくなるのを確認して販売店もしくは工事店に修理をご依頼ください。



- この製品の本体を直径1.6ミリメートルの銅線で接地してください。感電や故障の原因となります。



- 取り付けネジや、ボルトや接栓は、指定している力(トルク)で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、この製品には触れないでください。感電の原因となります。



⚠ 注意

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っばるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



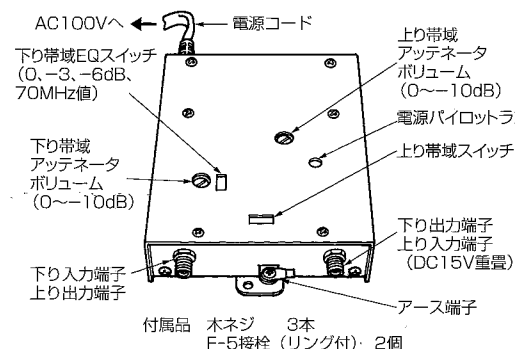
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



お取扱いの前に

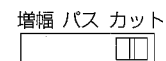
- 取付作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえで行なってください。
- この製品を落としたり、ぶつけたり、無理な力を加えることのないよう注意してください。
- 電源供給は、すべての同軸ケーブルが完全に接続されていることを確認した後、行なってください。
- この製品を下り出力、上り入力端子からのDC15V重畳電源(別売)で使用する場合、この製品と電源装置を結ぶ同軸ケーブルに電流が流れています。途中に通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。また同軸ケーブルの先端加工は心線と編組線が接触しないよう注意して行なってください。火災や感電の原因となります。
- 使用時、異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。

各部の名称



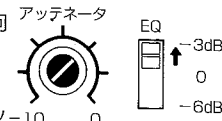
上り帯域スイッチ

- 上り帯域スイッチを増幅側にスライドさせると、利得15dBの増幅器として動作します。
- 上り帯域を使用しない時は、上り帯域スイッチをカット側に切り換えてください。上り帯域は約30dB減衰します。
- 上り帯域を増幅させずに通過させるときは、上り帯域スイッチをパス側に切り換えてください。上り帯域は約4dB減衰します。



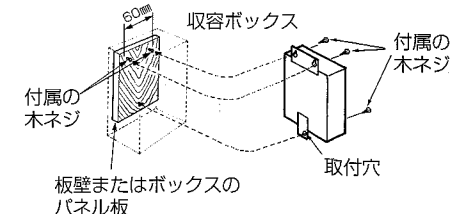
調整方法

1. 調整する前にスペクトラムアナライザなどで入力レベルを測定し、入力レベルが下り80dBμ以下、上り増幅時95dBμ以下であることを確認してください。
 2. スペクトラムアナライザなどを出力端子に接続してください。
 3. 全体域のレベルを測定し、定格出力レベルに平均的に近づくように入力アッテネータボリュームで調整してください。
- ボリュームは反時計方向いっぱいには回しきった時、減衰量最大となります。(0~-10dB連続可変)
 - ※出荷時の設定は入力アッテネータボリュームは-10dBとなっています。
 - CATV下り入力EQスイッチを-3dB/-6dB側にスライドさせると、770MHz付近を基準にして70MHzの利得がそれぞれ3dB/6dB減衰します。



取付方法

- 付属のホネジ3本で図のようにしっかりと木板に取り付けてください。



電源の供給

- 電源の供給は、必ず取付工事が終わって、すべてのケーブルが正確に接続されていることとアース端子が大地に接続されていることを確認してから行なってください。

＜内蔵電源を利用する場合＞

- この製品には電源スイッチがありません。電源コードのプラグをAC100Vコンセントに差し込むことにより、電源が供給されます。

＜重畳電源を利用する場合＞

- この製品を動作させるための重畳電源を供給できる端子は下り出力、上り入力端子のみです。
- 外部電源装置は、別売のDC15V出力0.17A以上の電源(PS-1500、PS-1520)をご使用ください。(AC30V出力の電源装置は使用できません。)
- 電源コードのプラグには、そのままでも重畳電源が流れることはありませんが、工事のじまになる場合にはニッパなどで切り取ってください。このとき電源コードのプラグがAC100Vコンセントに差し込まれていないことを必ず確認してください。
- 内蔵電源(AC100V)で動作中に、出力端子から重畳電源(DC15V)を供給すると、わずかな電圧差によってどちらかの電源で動作します。故障することはありませんが、内蔵、重畳どちらか一方の電源で動作させてください。

使用上のご注意

- 重畳電源を利用する場合において、この製品と電源装置を結ぶ同軸ケーブルに電流が流れます。途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。
- ブースタ本体を直径1.6ミリメートル以上の銅線で大地に接続してください。